

第4回 持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会 ～当社の抱える課題と、解決に向けた取組～



2023年4月4日

1. 福岡空港の概要
2. 直近の旅客数・便数の状況
3. 保安検査場混雑への対応
4. 人手不足への対応
5. 空港GXへの対応

1. 福岡空港の概要

◆ 運営会社

商 号 福岡国際空港株式会社

設 立 2018年7月2日

旅客数

(単位:万人)

運営開始 2019年4月1日

資本金 178億5,000万円

従業員数 約600名

年度	2018	2019	2020	2021
国内線	1,792	1,756	648	944
国際線	691	546	1	2
合 計	2,484	2,303	650	946

◆ 主な福岡空港内事業者

グランドハンドリング会社

JAL、ANA、SKY、JALグランドサービス九州、西鉄エアサービス、羽田タートルサービス、スイスポートジャパン、SAS

保安検査実施会社

にしけい

ターミナル警備会社

にしけい、ファビルス

ターミナル清掃会社

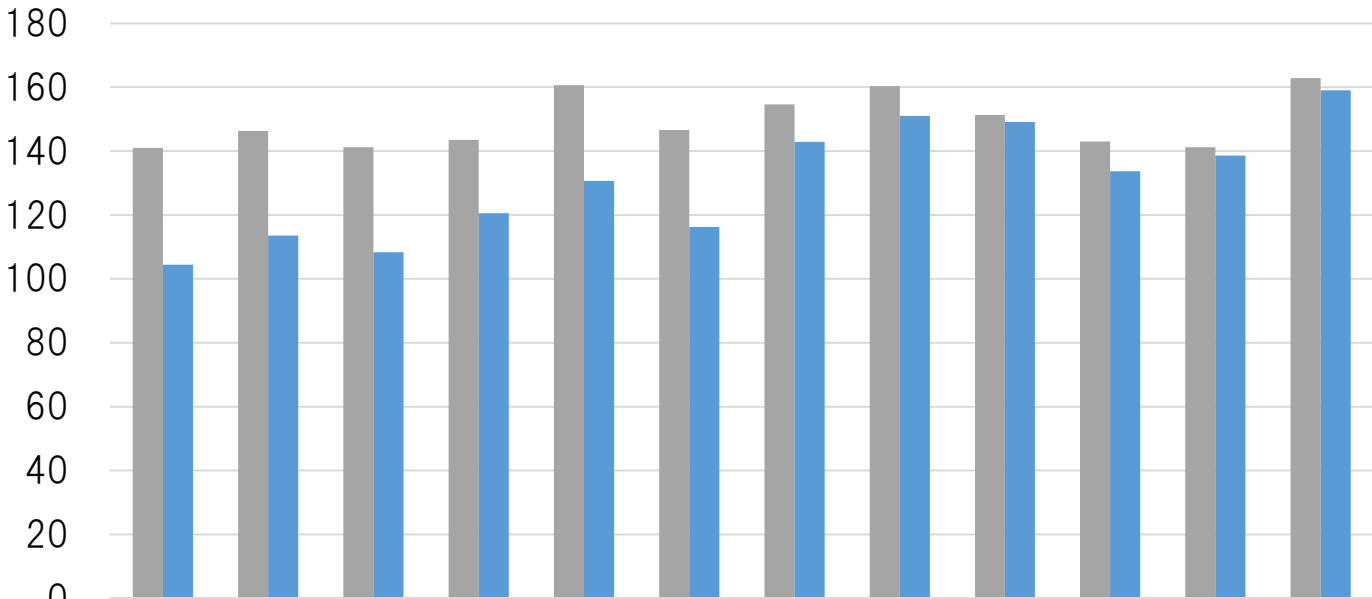
シンコー、ミカサ

1. 福岡空港の概要
2. 直近の旅客数・便数の状況
3. 保安検査場混雑への対応
4. 人手不足への対応
5. 空港GXへの対応

2022年度旅客数の推移(国内線)

- 2022年度事業計画の国内線旅客数は1,380万人(2018年度比で約77%)を計画。
- 12月はコロナ前(2018年度)と同等水準まで回復。
- 2022年度見通しの国内線旅客数は約1,568万人(2018年度比 約87%)の見込み。

(単位:万人) 国内線旅客数推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
■ 2018年度実績	141	146	141	144	161	147	155	160	151	143	141	163	1,793
■ 2022年度実績+見通し	104	114	108	121	131	116	143	151	149	134	139	159	1,568※

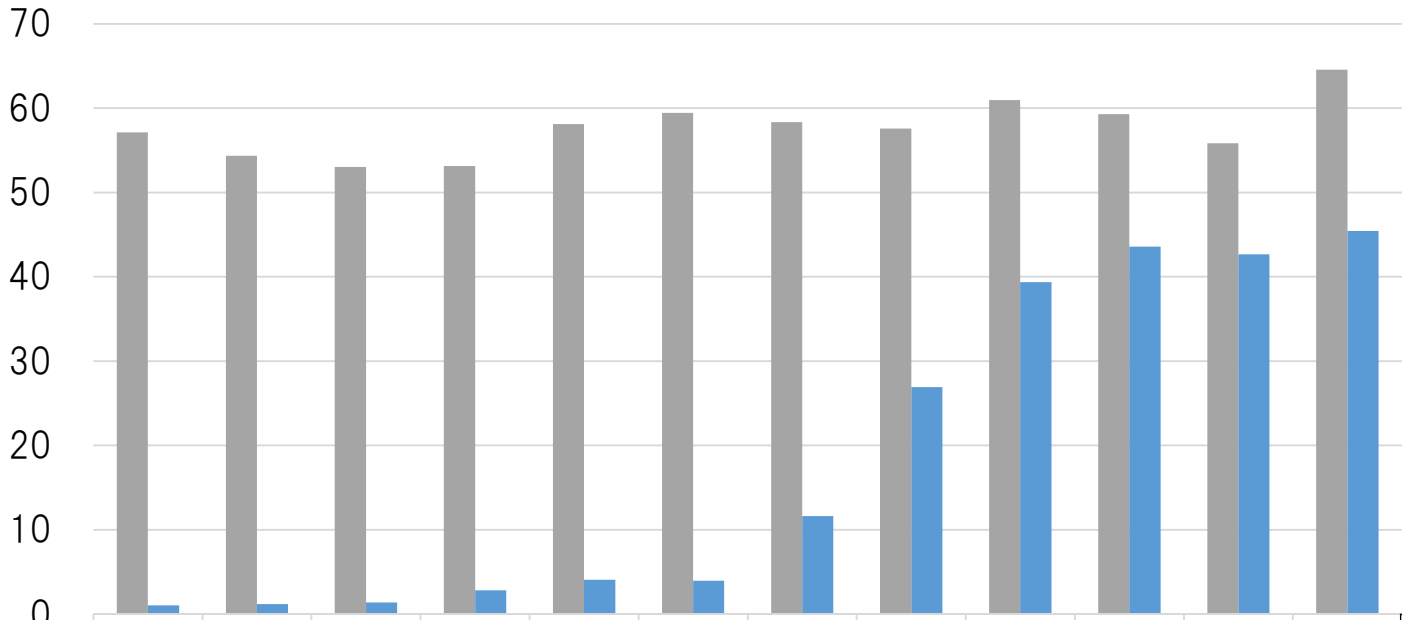
※2月迄の実績+3月推計値

2018年度比	74%	78%	77%	84%	81%	79%	92%	94%	99%	94%	98%	98%	87%
---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

2022年度旅客数の推移(国際線)

- 2022年度事業計画の国際線旅客数は130万人(2018年度比で約18.8%)を計画。
- 10月11日の水際対策緩和以降、旅客が急回復。
- 2022年度見通しの国際線旅客数は約224万人(2018年度比 約32%)の見込み。

(単位:万人) 国際線旅客数推移



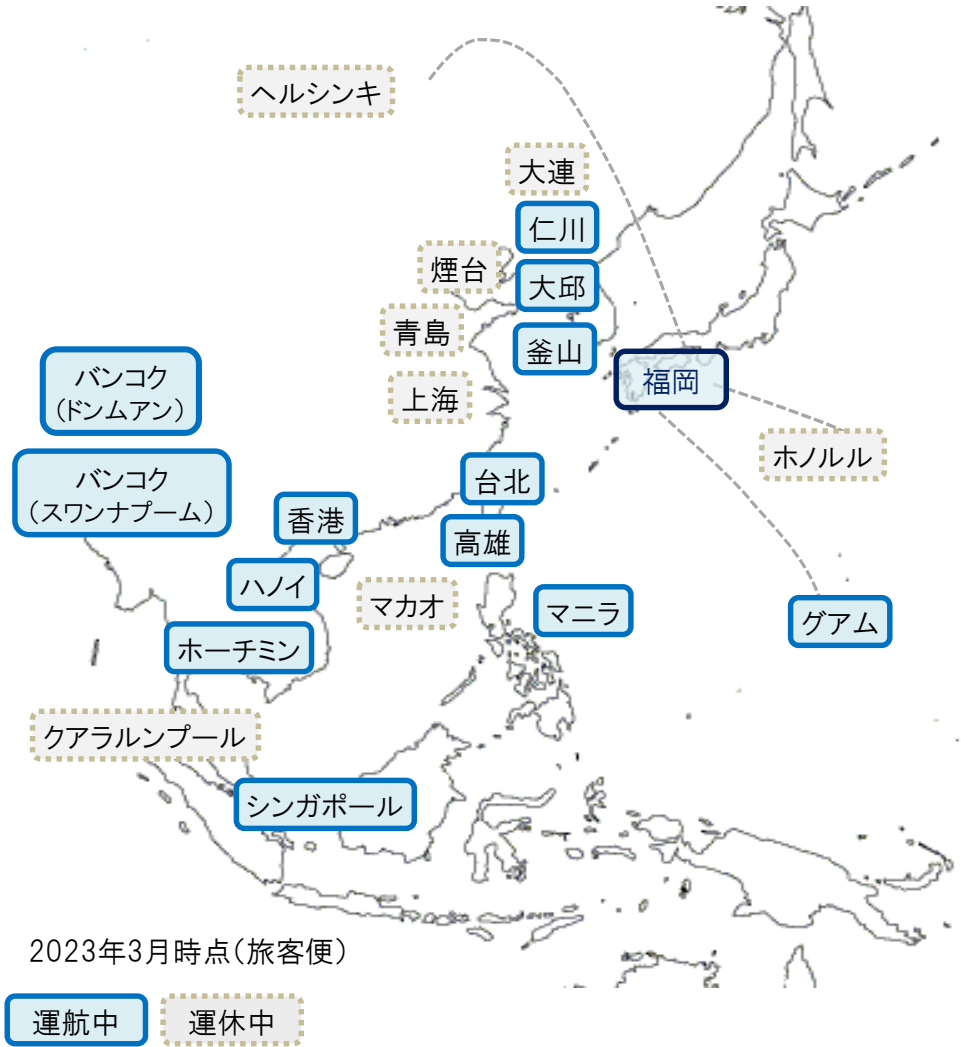
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2018年度実績	57	54	53	53	58	59	58	58	61	59	56	65	692
2022年度実績+見通し	1.0	1.2	1.4	2.8	4.1	4.0	11.6	26.9	39.4	43.6	42.7	45.4	224

※2月迄の実績+3月推計値

2018年度比	1.8%	2.2%	2.6%	5.3%	7.0%	6.7%	20%	47%	65%	74%	76%	70%	32%
---------	------	------	------	------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

国際線の復便状況(2023年3月時点)

【国際線運航状況】



＜国際線 旅客便数(1カ月)＞

行先	1月	2月	3月	(対2019.3月)
韓国	879便	803便	883便	98%
中国 ※1	0便	0便	0便	—
台湾	137便	116便	133便	64%
香港	73便	72便	88便	66%
フィリピン	46便	44便	50便	81%
シンガポール	13便	12便	13便	42%
ベトナム	42便	36便	40便	91%
タイ	90便	76便	84便	90% ※2
マレーシア	0便	0便	0便	—
アメリカ	9便	8便	10便	19%
ヨーロッパ	0便	0便	0便	—
計	1,289便	1,167便	1,301便	74%

注記 1～2月:実績、3月:速報値

※1:マカオ含む

※2:2019年9月実績(タイエアアジアX就航中)との比較

・3月時点では、2019年同月比で7割強の回復となる見込み。
・韓国・ベトナム・タイ路線においては、コロナ前に迫る水準まで回復する見込み。

1. 福岡空港の概要
2. 直近の旅客数・便数の状況
3. 保安検査場混雑への対応
4. 人手不足への対応
5. 空港GXへの対応

3.保安検査場混雑への対応

◆ 抱える課題

- コロナ禍に離職した保安検査員が多い中、急激な利用者の増加において保安検査員の確保が追いついていないこと等により国内線・国際線とも保安検査場の混雑が発生している。
- 保安検査場の混雑により、旅客利便性の低下のほか、搭乗の遅れ、買い物の時間が確保できない等の問題が懸念される。



混雑の様子(国内線)



混雑の様子(国際線)

保安検査場混雑緩和に向けた取組

本来航空会社が行う以下の内容について、混雑緩和に急ぎ対応するため当社が主体となって航空会社と連携し取組を実施している。

◆ 2次委託先の紹介

- 保安検査業務のうち、資格が不要なトレバックや旅客案内等の業務については2次委託するよう、保安検査会社に対し委託先を紹介し、マッチングを行うことで、資格保有者は保安検査業務に専従してもらうよう調整。

◆ 新たな検査会社の起用・紹介

- 新たな保安検査会社を起用し、保安検査可能レーンを拡大する。

◆ 保安検査の運用方法の変更

- 従来の、保安検査直前にチケットを確認する方法から、事前にチケットを確認する方式へと変更し、保安検査に要する一人当たりの時間の短縮を目指す。

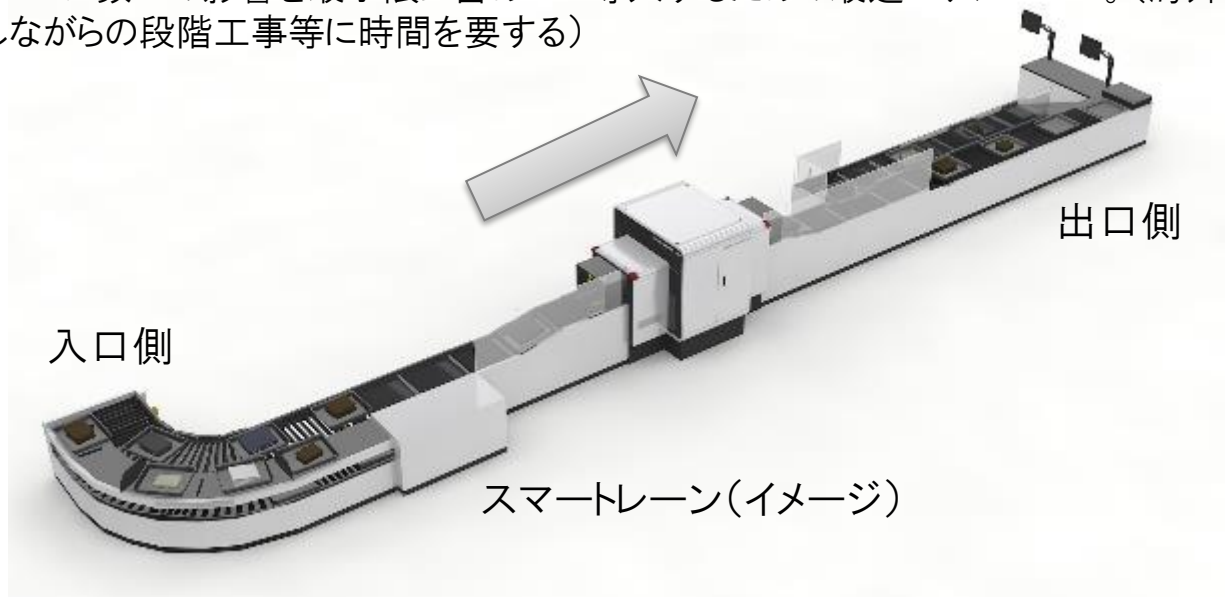
上記の取組により、ゴールデンウィークまでに、国内線においては16レーンのうち最大14レーンオープン(現在は最大11)、国際線においては最大で全6レーンオープン(現在は最大4)を目指す。

なお、更なる需要拡大に向けては、先進的な検査機器の導入や保安検査員の確保が不可欠

スマートレーンの導入

- 複数の旅客が同時に検査レーンを利用することで、混雑の緩和を目指す。
- トレーバックが自動でなされるため、その省人化により、検査レーンの拡大が見込まれる。
- 国内線においては、2023年に設計、施設改修に向けた準備工事等を行い、2024年春に、保安検査場へのスマートレーン導入を目指す。※
- 国際線においても、ターミナルの増改築により2024年度内に保安検査場を移設・拡張(300㎡⇒1,400㎡)するとともに、スマートレーン導入予定。

※ オープンレーン数への影響を最小限に留めつつ導入するための最速スケジュール。(海外工場での製造、輸送、運用しながらの段階工事等に時間を要する)



1. 福岡空港の概要
2. 直近の旅客数・便数の状況
3. 保安検査場混雑への対応
4. 人手不足への対応
5. 空港GXへの対応

4.人手不足への対応

◆ 抱える課題

- 福岡空港の国内線および国際線の旅客数は新型コロナウイルスの影響により大幅に落ち込み、同時に、航空・空港業界に対する将来の不安等により離職者が増えた。
- その後、政府による全国旅行支援や水際対策の緩和により、旅客は急回復しているが、福岡空港で働く人材は未だ不足している状況である。
例えば保安検査員は現状でも30～40名程度が不足しており、コロナ禍前まで回復した場合は100名程度の不足となることが予測されている。
- 結果として、人手不足によって保安検査場の混雑等が発生し、旅客利便性の低下を招いており、福岡空港で働く人材の確保が急務である。

◆ 取組

- 短期的には即戦力の獲得、中長期的には航空業界のイメージアップを図るべく、福岡空港合同企業説明会の開催および採用専門ホームページの構築を実施した。

福岡空港合同企業説明会の開催(国の補助を活用)

◆ 第1回合同企業説明会

- 日時 2023年1月28日(土)11:00~17:00
- 場所 福岡空港国内線3階イベントスペース
- 参加事業者 14社
- 来場者数 約570名

前年度に各社で実施した説明会1回あたり出席者の約3倍
即戦力となる中途採用希望者が約100名参加



◆ 第2回合同企業説明会

- 日時 2023年3月18日(土)11:00~17:00
- 場所 福岡空港国内線3階イベントスペース
- 参加事業者 15社
- 来場者数 約400名 ※事前予約制
- 出展企業コメント「参加者の多くが空港で働くことに興味を持っているため、他の採用イベントと比較しブース来場者数が多かった」
「費用負担が他イベントと比較して少ないため、今後も継続して開催して欲しい」
「空港で説明会を行っているため、空港で働くイメージを伝えやすい」14



福岡空港採用専門ホームページの構築(国の補助を活用)

- 空港内事業者の様々な職種の求人情報を掲載した福岡空港採用専門ホームページを2月28日(火)に開設
- 掲載事業者の掲載料は無料
- 15事業者、34職種の求人情報が掲載中
- 1日あたり、500近い詳細ページビューあり



1. 福岡国際空港(株)(FIAC)の概要
2. 直近の旅客数・便数の状況
3. 人手不足への対応
4. 保安検査場混雑への対応
5. 空港GXへの対応

GSE資機材の共用化・共有化について

◆ 経緯

- 福岡空港の特性として敷地が非常に限られていることがある。コロナ禍以前は、福岡空港内のGSE置場は満車状態にあり、現在の状況が続けば、今後の需要を受入れられなくなる可能性がある。
- 更に全世界的に脱炭素化への動きが進む中、福岡空港においてもCO2排出量削減、再生エネルギーの導入等空港GXへの対応が必要な状況となっている。
- 2020年1月に国土交通省よりグランドハンドリングアクションプランが発出され、柱の一つとして「資機材の共通化等による生産性の向上」が掲げられた。
- 福岡空港はモデル空港に選ばれ、2020年1月、グランドハンドリングWG発足。狭隘な敷地を有効に活用し、応需能力を最大化するため、更には車両の効率的な運用によるCO2の削減を目指し、GSE資機材の共用化・共有化の検討を開始。

◆ 取組

- 2021年度にGSE車両のオンスタンド方式※
での共用トライアルを実施。
- 2022年度は共用トライアルを継続するとともに、先進資機材に関するWGのモデル空港として、非自走GSE動態調査(調査主体は国)を実施。



トーイングカー(JAL/ANAの共用)

内際オンスタンド型共用トライアルについて

- 2021年度よりオンスタンドによる共用トライアルを実施しており、対象車両の走行距離は国内線で約15～18%、国際線では約70%削減できることを確認。
- 走行距離削減により、CO2も国内線で年間約11～16トン、国際線においても年間4トン以上が削減できる見込み。

内容	2021年度			2022年度	
タイトル	国際線 第1回	国内線 第1回	国内線 第2回	国内線 第3回	国際線 第2回
時期	7月27日～ (4週間)	12月1日～ (4週間)	3月1日～ (2週間)	7月1日～ (現在も実施中)	3月18日～ (1週間)
対象便	国際線定期便(5社)	国内線定期便(現在11社)			国際線定期便(17社)
参加会社	ANA、JAL、JGSQ、 西鉄エア	ANA,JAL,JGSQ,SKY,SAS			ANA、JAL、JGSQ、 西鉄エア、SPJ、HTS
対象 車種	パッセンジャーステップ ※オンスタンドのみ	航空機牽引車 ※オンスタンド型共用	ベルトローダー ※オンスタンド型共用	ハイリフトローダー ※オンスタンドのみ	
					

【数値結果】 (※2021年度分)	国内線	国際線
走行距離削減率(実績)	▲15%～▲18%	▲70.6%
年間CO2削減効果(推計)	▲11.3～16.2トン	▲4.0～4.7トン

オンスタンドの運用イメージ

- 現状はGSE置き場においてあるGSE車両を便の運航に合わせてそれぞれのスポットに移動。
- オンスタンド方式では、スポット周辺にGSE車両を固定で置いておけるため、GSE置き場⇄スポット間の移動が発生しない。

【参考事例：国際線におけるベルトローダーのオンスタンド運用無、有におけるGSE車両移動】

オンスタンド運用無



オンスタンド運用有

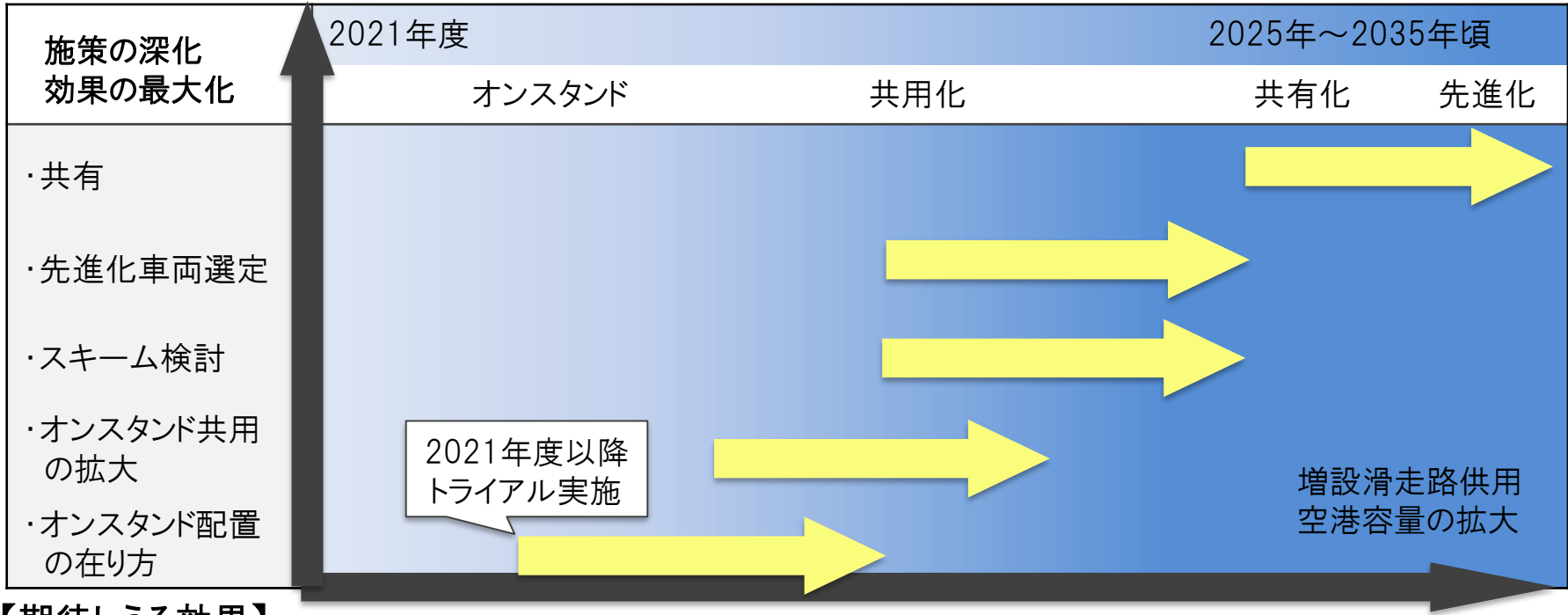
国際線53番スポット周辺



オンスタンド運用無の状態では国際線から滑走路北側を超えて国内線のGSE置き場まで車両の移動が発生するが、オンスタンド運用では国際線スポット周辺のみでの移動となり、走行距離が大幅に減少する。

今後のロードマップ

- 福岡空港は2025年に増設滑走路供用予定。この需要増大への対応を目標に、2025年～2035頃を目途にオンスタンド・共用化・共有化・先進化により、脱炭素化や更なる生産性の向上に努めたい。



【期待しうる効果】

- 資機材の共用・共有化による生産性の向上（外航の効率的な受託）
- 将来的なGSEの台数抑制＝GSEの置き場不足の解消
- 安全面・効率面（定時性）の向上
- 経済面（燃料費の低減）
- 環境面（CO2排出量の低減）